

## 新 子育て支援センター建設計画について

### 1. 現状の課題・背景

#### (1) 現施設の課題

##### ① 子育て支援センター

乳幼児の遊びを通じた保護者の交流、情報発信、子育て相談の拠点として運営。設置当初から町民会館の1室を利用。トイレをはじめとする設備はすべて大人用であり、授乳スペースや相談室等の専用施設がないため、利用者に不便を強いています。

##### ② ワークセンター (i ワーク)

子育て世代の仕事と子育ての両立を推進する拠点として、H29.5月に役場分室に設置。1日平均5~8名が利用し好評であるが、多様な働き方が拡大しつつあり、利用者の増加も相まって、ワークスペースや託児スペース、駐車場が手狭となっています。

#### (2) 建設計画の背景

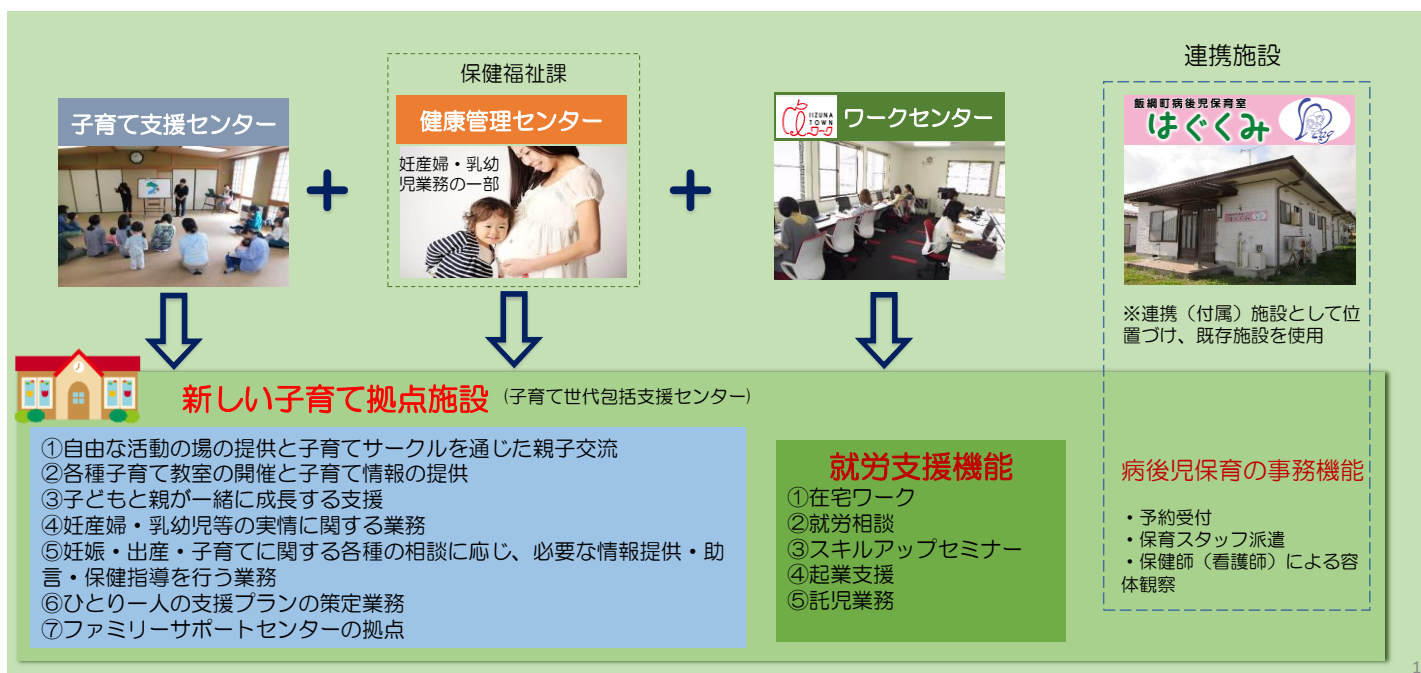
① H28.1月飯綱町保育園等新設検討委員会の「保育園等新設に関する報告書」において、新しい子育て支援センターは、「町民会館の敷地を利用し、新築又は増築により設置」の方向性が示されています。

② 国は令和2年度までに「子育て世代包括支援センター機能」の設置を全自治体に求めており、妊産婦・乳幼児等の情報を一元化して、妊娠から就学前までの個々の「支援プラン」の作成が義務化された。また、本機能は地域の子育て支援拠点施設に設置することが望ましいとされています。

### 2. 新施設の概要

#### (1) 新施設の機能

子育て支援センターとワークセンターの機能を統合させ、健康管理センターとのより密な連携も加え、新たな「子育て支援拠点施設」を設置し、相互利用の事業拡大を図るとともに、多様な働き方の推進、妊娠期からの切れ目のない施策、近年増加傾向の発達障害児支援等にきめ細かく対応する「子育てと親育ちの拠点施設」をめざします。



(2) 建設場所 町民会館東側チビッコ広場内（延べ床面積約 500 m<sup>2</sup>）

(3) 構造等 木造二階建て

一階 子育て支援センター機能と母子保健機能（子ども達のエリア）

多目的プレイルーム 休養スペース（授乳・おむつ替え）発達相談室  
ランチスペース 授乳児トイレ（多目的トイレ） その他必要な施設

二階 ワークセンター機能（ママ達のお仕事のエリア）

ワークスペース（PC、手仕事、グループ室、個室） セミナースペース  
コミュニティスペース 多目的会議室 相談室 その他必要な施設

(4) 施設機能の視点

① 景観と安全に配慮し、親子が安心して利用できる施設

ア 親子が安心・安全に過ごすことができる施設

- ・木造らしさを出し、手が触れる場所等に木の温かさを肌で感じれる。
- ・木造建築でも構造計算を行い十分な耐震性能を確保しながら、プレイルームの無柱大空間とする。

イ 高断熱化や風通しの良さでやさしい室内環境をつくる。

- ・断熱性を高め年間を通して室内温度の変動を緩やかにする。
- ・少ないエネルギーで快適に過ごせる環境をつくる。

ウ 雪への配慮で1年を通して安心して通える施設

- ・玄関を奥まらせることで屋根からの落雪がない安全な出入口。
- ・屋根勾配に合わせ建物まわりには十分な堆雪場を確保。
- ・アプローチは除雪しやすい舗装等。

エ 親子の安心・安全を支えるセキュリティの考え方

- ・子育てエリアを分け、見通しやすい大きなワンルームとすることで少人数の保育士でも見守りやすい。
- ・北側には不審者の侵入に備えて避難動線を確保

オ 風景になじみ家のように落ち着ける施設

- ・屋根形状は周囲の建物あわせた切妻屋根とし、緑を連続させることでふれあいパーク全体の一体感をつくる。
- ・軒を低く抑えてボリュームを落とし、子ども目線のスケールで落ち着いた空間をつくり、コンパクトで可愛らしい親しみの持てる外観で、子どもたちに家にいるような居心地の良い建物とする。

② 本施設の利用者のみならず、地域住民も利用・交流可能な施設・園庭

ア 自然環境を活かし地域に開かれた園庭

- ・丘のある庭や芝生の庭等、フェンスなどで囲み、小さな子どもも安心して外遊びができる。
- ・施設利用者だけでなく住民が気軽に立ち寄れる場所。ひろばを開放することで地域住民と施設利用者の交流が生まれ、子育てセンターやワークセンターの利用促進に繋げる。

イ 地域の交流の場としての施設

- ・公園に来る子どもはもちろん町民会館を利用するお年寄りも気軽に立ち寄り休

憩できる。

- ・子育て保護者が気軽に日頃の子育ての相談が出来る。

③ 就労・子育て・健康の各支援が効率よく遂行できる施設

ア スペースの兼用で託児と子育て支援をコンパクトに両立

- ・小さな居場所がたくさんある大きなワンルーム
- ・託児のみの利用の際にはスペースを限定し、少人数の保育士でも見守りやすい部屋サイズにできる。

イ 活動リズムに応じてエリアを分ける

- ・絵本を読む、寝るなどの静かな時間と、遊ぶ、食べるなどの活動する時間をエリア分け
- ・移動家具等でコーナーをつくり、各コーナーごとに性格の異なる居場所づくり

ウ 限られたスペースを最大限有効利用

- ・会議室とワークスペースは、セミナー利用等がない時には最大限ワークスペースとして使用できる。
- ・個々の仕事に応じた様々な働き場所をつくる。一人一人の仕事内容や仕事の仕方に合わせて、仕事の場所を選ぶことができる。

エ 誰もが使いやすい施設

- ・車椅子の人も2階の就労相談に来たり、ワークスペースで仕事ができる。

オ 将来の仕事の変化に対応できる可変性

- ・将来、使い方が変わっても対応できるフレキシブルなワークスペース。

④ その他必要な事項の検討

3. 設計担当会社

長野市南千歳 1-7-12 株式会社アーキプラン

4. 本書の目的

利用者様へ情報提供するため作成しました。

5. 作成者

飯綱町教育委員会 こども子育て未来室 子育て支援係 若林克吉

TEL 026-253-4769 FAX 026-253-6020 Email:kosodate@town.iizuna.nagano.jp